

Legend



喜怒哀楽
(きどあいらく)

ゼネラルプロデューサー
榎垣 俊幸

人は生まれた時から「喜怒哀楽」の気持ちを持ち合わせる。この事に深い感銘を受け、その意味合いの深さに、ただただ頭が下がる人生訓話に感銘を受けたのは、私が年齢を重ねたからであろうか。人として生まれ最初に「喜」の嬉しさを体験し、生きる事を大切にしたい様に思われる。そして、「怒」の体験としては、人や物や事を大切にしない人々に「怒り」を覚えたのを忘れない。更に、高度情報化社会で世界の情報を、特に幼い子供達の情報を集めれば集める程、心の痛み悲しい涙の流れる現状と未来の情報で、私の「怒りと悲しみ」は深まるばかりである。この地球が一つの星として輝き、幸せな宇宙の時代を迎える為に、足りない星に向っている様に思えてならない。物事をポジティブに妄想できる力こそが、この星を救えると提唱してこそ「楽の星」がやってくるであろう。

■ポジティブな未来

「未来はポジティブなものです。」と言い切る勇気と決断が大切です。未来を言い切る自信と勇気が、自分への応援歌となり、公明な道に向かいます。その未来は道々で様々な分岐点に出くわします。その分岐点で選択を決めなければならぬ思考錯誤でもあります。中にはどの方向に進むべきか答えのある問題もあります。それは、迷う事より、決める事の方が大切な場合があります。答えは、自信と勇気に育まれた決断こそが求められたポジティブ選択なのです。この自信と勇気に満ちた即決こそが、他者や協力者に新たな自信を与え未来を感じるマーチとなります。すなわち、ポジティブな妄想力を発揮するのです。この妄想力は、発想とは異なり360度自由に繋がり羽ばたきます。これまで経験のない物語を生み出します。そして、自分では経験のない奇想天外で不思議な自分を生み出します。夢と希望に包まれた素晴らしい世界が繰り広げられます。そして、この創造力が、今まで経験のない物や事を想いを綴ります。この妄想を抱ける企画力こそが、人々に夢をもたらすポジティブ未来を伝える妄想家と言えます。

■ポジティブ思考と発想

昨今、ポジティブ・マインドやシンキングなどと、やたら煩く各方面で語られているようである。安易に使うことで、単なる修飾語化してしまふ事を危惧している。これらの記号化された概念が、言語という極めて差別化された記号に変わる危険性を心配する。それは、記号化された概念は、それを導く思考の上に成立するものであり、ポジティブ・マインドの進化や発想は起こり得ないのである。考え方の間違った思考回路からは、正解は生まれて来ないと言う事である。会社や集団は、この

Keyword：分化全能性

ミラクルフルーツの流れで、もう少し植物の話を書きます。当時、私が行っていたミラクルフルーツの研究は、あくまで個人的な興味のアングラ研究でした。メインの研究は、植物バイオテクノロジーで、具体的には植物の培養細胞から医薬品などの有用物質を生産することでした。元々は工学系の大学院を修了して就職したのですが、入社して約1ヶ月の研修期間の後の配属先が、いきなり薬学部大学の研究室でした(出向)。社会人になって、直ぐにまた学生に逆戻りの気分でした。大学へは2年間の契約で研究費を注ぎ込んでいたのですが、研究室での研究を開始して2ヶ月ほどしてから、会社(本社・新事業開発部)が国家プロジェクトへ参入を決めました。MITI(当時は通産省、現、経済産業省:METI)が計画していた植物バイオテクノロジーを利用した有用物質の生産を目的としたプロジェクトで、うちの会社他、サントリー、キリンビール、協和発酵、日立製作所、三井石油化学、三井東圧化学、といった、当時のバイオ研究の錚々たるメンバーが揃ったプロジェクトでした。このプロジェクトを進めるにあたり、7年間で120億円の予算規模の構想をまとめることになったのです。元々、うちの会社は外資系の石油会社でしたが、私が入社したタイミングで4つの新事業を始めることになり、その一つがバイオ研究でした。当時、日本人のバイオ研究者として超有名だったハーバード大学の客員教授を引き抜いてリーダーに据え、国内からもバイオ研究の第一人者を数名ヘッドハンティングして作った組織でした。ただ、植物バイオの専門家がいないため、私を大学に出向させて技術を導入しようと考えていたのですが、その国家プロジェクトを立ち上げるために、うちの会社から出せるバイオ系専門の人間が私だけだったため、何と入社2ヶ月で、研究と併行しながら、そのプロジェクト立ち上げの仕事も任せられる羽目になってしまったのです。まず、プロジェクトの構想を国に承認させ、予算を確保するために膨大な計画書(作文)が要求されました。そもそも初めて行う研究開発というものは、目標はあっても、7年先の具体的な成果とか、その7年間をブレイクダウンして、各年、各月毎の進捗状況など、ハッキリ言って想像で作るしかないわけで、何とも無謀な計画書を7社で書き揃えなければならず、因みに、うちの会社の割り当ては、7年間で約20億円を使い切る計画書でした。たった入社2ヶ月の新入社員が携わる仕事ではないと思いますが、まさに“鉛筆なめなめ”膨大な計画書(コピペが出来ない手書)を作りあげて研究がスタートしたわけです。変な話、その年の予算は必ず使い切らないと、次年度の予算が削られるということで、とにかく使い切ることが使命でした。実際、当時の高額な研究機器を買い揃えても使い切るのは容易ではありませんでした。オリンパスさんの光学顕微鏡や実体顕微鏡などは、出来る限りのオプションをフル装備にして相当数購入しました。この話を書き出すと限がないのと、かなり聾聾を浴びる可能性が大なので、この辺で割愛します。

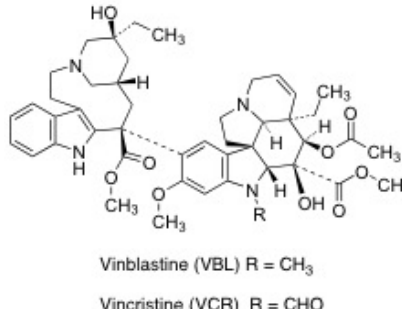
本題に戻りますが、植物細胞というものは、「**分化全能性 (totipotency)**」という特殊な能力を備えています。これを簡単に説明すると、細胞の一つ一つが種と同じ働きをするということです。植物の葉だろうが、根だろうが、どの組織の細胞からでも、元の植物体にまで成長する能力があることを分化全能性と言います。ヒトでは無理ですよ、手の細胞から人間は作れません。そこが植物細胞と動物細胞の一番の違いです。この分化全能性を利用して医薬品などの有用物質の生産に結び付けようとしたのが、その国家プロジェクトの狙いでした。正確に言うと、医薬品は厚生労働省マターでしたので、MITIは、医薬品生産を謳えませんでしたから、医薬品を作るための前駆物質や、染料、香料とかいったものを最終目標として掲げていました。縦割り行政の壁は当時も高かったのです。ニンジン为例にとると、ニンジン(食べる部分)を適当な大きさに切って、その組織の表面を次亜塩素酸ナトリウムで殺菌したのち、無菌操作によって栄養素の入った寒天培地(フラスコやシャーレ)に静置して温度・湿度が調整できるインキュベーターの中で培養すると、その切り口から細胞の塊が、カタチを無くして増殖してきます。イメージするならば、ニンジンをすりおろしたような状態の細胞の塊が増えてきます。植物の成長は、植物体としてはそれほど速くないですが、カタチを無くした状態の細胞の増殖は、かなり速くなります。2週間くらいすると、寒天培地に植え付けたニンジン組織の塊から、細胞の塊が容器一杯に増えてきます。このカタチを無くした細胞の塊(分化していない細胞塊)を**カルス (callus)**と呼びます。この脱分化した細胞(カルス)は、この状態で無限に増殖させることが可能です。植物体よりも増殖が速いことから、圃場で植物体を栽培して、それを収穫してその植物体から有用物質を抽出するよりも、ずっと効率良く生産が可能になるというのが、その国家プロジェクトのベースにありました。因みに、栽培は農水省マターで、その関連にも抵触できませんでした。カルスは、勿論そのままの細胞塊として永久に増殖させられますが、ある条件(成長ホルモン)下に細胞を移すと、根や茎、葉といった組織に再分化させることができます。例えば、漢方で使われる朝鮮人参は、栽培も大変ですし、収穫するまでに5~6年かかります。そんな朝鮮人参も、細胞を増殖させて、根の組織(培養根)だけを再分化させた状態で増殖させることが可能なのです。そうすると、2~3週間程度で、収穫が出来るほどの成長スピードになり、大量生産、工業生産が可能になります。当時、特に注目されていたのは、抗がん剤でした。この季節、その辺でよく見かけるピンクや白い花が咲く「ニチニチソウ」、このニチニチソウには、ビンブラスチン(vinblastine: VBL)、ビンクリスチン(vincristin: VCR)という2種類の抗癌成分が含まれています。当時1mg、100万円と言われていました。何故、そんなに高価なのかというと、化学構造がわかってはいましたが、その構造が複雑で化学合成が出来ない物質だったからです。また、ニチニチソウの中の含有量が非常に少なく、抽出するのが大変だったというのが高価になる理由です。こういった有用物質の生産を国家プロジェクトでは狙っていました。研究では、必ずコントロールというものが必要になります。つまり標準物質です。殆どの研究がコントロールとの比較になるのです。実際にその物質が培養細胞内で作られているかどうかを判断するために使われます。私もニチニチソウ細胞を培養してVBLやVCRを生産させるというテーマでも仕事しておりましたので、そのコントロールを得るために、当時、東大の検見川農園で栽培していたニチニチソウを約120kg収穫して来て、そこからVBLやVCRを抽出する作業も行いましたが、かなりハードな作業でした。ちょうど今くらいの時期でしたので、収穫するだけで大汗でした。(つづく)



カルス (callus)



ニチニチソウ (Catbanthus roseus)



T O M O K O ' S R E C O M M E N D

職人系ソフトロックのSSW、Dent Mayの新作「Across The Multiverse」

これまで、去年ご紹介したAnimal Collective主宰のレーベルからリリースして注目を集めていましたが、今作は一昨年ご紹介したToro Y Moiが所属しているレーベルからのリリース。ご存知、偏り過ぎているオススメの音楽に反省しつつ続けたいと思います。BEACH BOYS直系型の美ハーモニーとメロディ、何処までも広がる開放感と清涼感があるトロピカルな夏ポップサウンドが、さわやかな秋の風情れにもじっくりハマります。収録曲はLAの彼のベッドルームで制作・収録されたものから選曲され、ほとんどの楽器をデント自らが演奏している拘りよう。M-3にはNYのシンガー・ソングライター、フランキー・コスモスがデュエットで参加しアルバムに華を添えています。少し気弱けどジェントルな歌声と洒落なメロディ、ストリングスに入り混じるピアノやキラキラしたシンセなど多様な楽器でソフトロック/ポップスサウンドの現在最高峰型西海岸ポップ!と言われているのも深く頷ける。9月に入ると続々と新作がリリースされるので(オスス〜LCD SoundsystemやMount KimbieやSt.VincentやBECKとか…)秋の夜長は素敵な音楽で癒されましょう☺



ご意見・ご感想は adtain@adproject.co.jp まで メールでお寄せください。
発行：株式会社エーディープロジェクト 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-27-4
www.adproject.co.jp

↑上のスペースを外部的にも開放致します。是非、寄稿をお願い致します。
詳しくは、こちらまで→<http://adtain.tokyo/contribution/>

facebook 公式 facebook を check
adproject がお届けするエンターテイメント情報を随時UP!!

皆様の いいね! をお待ちしております。

facebook adproject



もしくは、<https://www.facebook.com/adproject.japan>



モデル：フランク 玲美 / Height:179cm
adproject 公式ホームページ・トップ映像モデル

adtainとは、adproject と entertain が融合した「おもてなし」のトピックス誌

思考回路を学ぶ事にある。学びのスケルトンを選び、これからの未来に何を提供し役目を見つけるかが、自分に課せられた人生の命題でもあろう。思考のあり方が、未来を創造し世界を繰り広げて行きます。生命の時限が己の時限ではありません。それは、単なる肉体的時限であり、生き方の時限である、もう一つの考え方や発想など精神分野では生き継がれていきいます。物は死ぬが心は不死鳥であるとでも言いましょうか。また、時代は刻々と動いて行きます。その時代の中で大切な発想は変わりません。そして、様々な発想の転換が大切な未来から求められます。その発想の転換時に求められるのがポジティブ・マインドに定義づけられた妄想力です。妄想力の自由さと楽しさと明るい創造力は、人々に夢や希望を与えます。今までに無かった発想や開発コンセプトは、単なるモノではなく、暮らしの在り方まで変える力と、「夢」と呼ばれる未来を呼び寄せます。このポジティブな発想は、暮らしの在り方そのものに希望と夢と、明るさと、生きてる事を「恋」しはじめます。

■幸せの定義

幸せの定義とは、自分の存在理由にも関わる自問自答でもある。更に、自分の存在価値を探し「妄想」しましょう。自分の凛々しい姿を妄想し、人々から尊敬され、明るく楽しい

暮らしの提案をし、未来に夢を持ち希望の時代を生き抜きましょう。しかし、これを実践する事は難しく、実感できない。その為には「感謝の精神」を持つ事です。幸せや、喜びの感受は、「感謝」の気持ちを持つ事で実感できる技です。更には、感謝を抱く為にポジティブな視点を持ち、優しい妄想を抱く事で優しい気持ちで未来を考えられる様になり、生きてる自分に感謝できる自分に生まれ変われます。感謝して生きる事で、幸せな日々が送れます。それが、明るく楽しい未来を妄想できる秘訣なのです。人生の終盤になって気づいた事は、全ての学習や修行は「感謝」できる自分であったと言う事なのかも知れず、全ては感謝の上のポジティブであり、感謝の上の妄想であると言う事です。更に、生きてきた事や、友人、家族や愛人にも感謝の精神の中で考える事が、いかに大切かを知る貴重な答えに導きます。昨今、教育で失っているものは、この「感謝」に対する心の在り方であろう。まず、自分に感謝の在り方、更に、自分以外の万物に対する感謝の在り方、これまでの過ぎし「時」に対する感謝の在り方、「愛する気持ち」と「優しい気持ち」への感謝の在り方、これらに対する「気持」と「思考」の在り方を「右脳で学ぶ力」が明日を築く妄想を生み出します。ポジティブ妄想力で未来を開くのが adproject です。



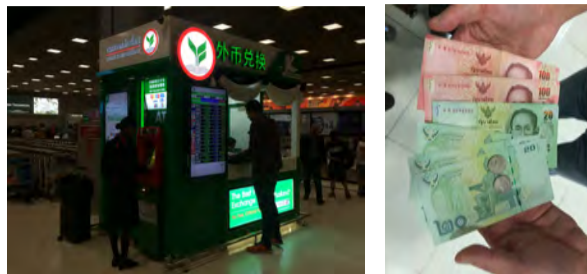
PRODUCER：松延 智明

■Event：海外取材

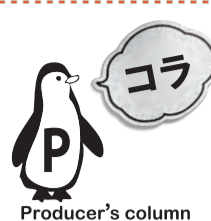
■Date：2017.9.11

■Place：タイ/バンコク

お客様（守秘義務上、名前は出せません…）の取材&撮影で初上陸のタイ。カメラマンと共にインタビューアとして訪れました。取材内容は書けないので、タイの最新レポートです！ 時差は-2時間、1パーツ約3.5円。写真上段は、スワンナプーム国際空港の両替所です。日本語は無いのに、中国語表記があります。影響力の差でしょうか。早速、両替をしにいくと…なぜか、笑われてしまいました。ほとんどがクレジットカードで済むので、チップ分が手元があれば良いかと思って、1,000円札を係員に出したら「ほんど？」という笑顔が返ってきました。両替額の約280パーツといえば、確かに1食でも足りないのではなかったのかもしれませんが。写真2段目は空港からホテルに向かう高速道路。ほとんどが日本車なのに驚きです。日本よりも日本車が走っている印象でした。印象的と言えば、タクシーの色。ピンクや黄色のカラフルなタクシーばかりで、日本とは趣が違います。現地の方によると、タクシーの99%は日本車とのこと。タイの外資系企業の約50%が日系企業というものもなげます。そして、下段の写真。ホテルのテレビです。NHKですが、砂嵐状態でほとんど見えません。ほかのチャンネルも似たり寄ったりで驚きですが、宿泊先はお客様の配慮もあってか、非常にきれいでした。そして、最も大事な食事。場所にもよるのかもしれませんが、本当に美味しいです。興味のある方はお問い合わせください。バンコクはコンビニもマクドナルドもありますから、全くタイが初めてでも、それなりに過ごすことができそうです。



Project 1.



2017 SCAJ

SCAJ ワールド スペシャルティコーヒーカンファレンス アンド エキシビジョン 2017 (コーヒーのアジア最大級の展示会) 9月20日~9月22日東京ビッグサイト EXECUTIVE PRODUCER: 平田 元春



Producer's column

昨年書いたのですが、10月号でしたので終わってからの記事でした。そこで、本年は9月号とすることで前もってのご案内が出来ます。会期は、昨年より1週間早い9月20日(水)~9月22日(金)です。場所は、東京ビッグサイト・西4ホール 開催時間は、10:00~17:00 テーマ:革新の時 主催:日本スペシャルティコーヒー協会 国内外のコーヒー関連企業・団体、105社・210ブース (SCAJ2016実績)が出席。世界各国のコーヒー生産者や機器メーカー、関連業者などの最新情報が日本に集結。スペシャルティコーヒーのすべてが世界中から集まる、アジア最大のスペシャルティコーヒーイベントに、ぜひご来場ください。



2016年の各国駐日大使によるテープカット



平田は、会場にずっといます！会場で、お待ちしております。

- <2017 競技会>
- JBC Japan Barista Championship 準決勝 20日(水) 決勝 21日(木)
- JBrC Japan Brewers Cup 準決勝 21日(木) 決勝 22日(金)
- JCTC Japan Cup Tasters Championship 準決勝 22日(金) 決勝 22日(金)
- JRMTC Roast Masters Team Challenge 決勝 22日(金)



偶然入手しました。

PRESIDENT：榎垣 俊吾

先日、帰りにフラットとTSUTAYAに寄ったところ、SWITCH入荷の札が、店員さんに聞くと、急遽夕方に入荷してあと一台あります。ということで即購入をした。しかし突然の出来事に予備知識もなかったことで、ファミコン世代の私は戸惑った。これまでゲーム機はファミコンのような据置機とニンテンドーDSのような携帯機の二本立てであったが、なんとSWITCHは両方を兼ね備えたハイブリッドゲーム機となっている。タブレット端末のようなものが本体になっており、据置機として使う時は「ドック」と呼ばれるものにつなげてテレビ画面に出力すると共に本体の充電を行う。ジョイコンという専用コントローラーが本体の左右に装着されている。切り離しが可能で、それぞれ単体のコントローラーとしても使用でき、一体型コントローラーとしても使用できる。さらにディスプレイがある本体の左右につけると携帯型ゲーム機に変わり、まさに次世代のゲーム機という感じである。ちなみに右の写真が内容物すべてであり、取説も付属なしと本当に時代は変わった。そしてグラフィックも美しい。本体の液晶はHD(1280×1080)だがドックに収めてテレビ画面への出力はフルHD(1920×1020)となる。イチバンの驚きは、ソフトが光学ディスクでなく、小さなゲームカードであり、読み込み速度が速い。しかもゲーム購入はダウンロード版もでき、マイクロSDカードに保存できる。画面を撮影してSNSでシェアできるのも今どき。



Project 3.

EXECUTIVE VICE PRESIDENT：横田 郁夫

■Event：こんなに準備したのに・・・

■Date：2017年8月

■Place：多摩川河川敷(大田区)



皆さん、夏の風物詩と言うと何を思い浮かべますか？「浴衣」「水着」「かき氷」？色々あると思いますがやはり「花火」ですよね。弊社は大田区役所さんが催している「大田区平和都市宣言記念事業 花火の祭典」の総合管理業務に、なんと今年で27年間ありがたくも携わらせて頂いています。びっくりするぐらい長いお付き合いです。大田区さんの花火は他とちよっと違って、"平和"を趣旨とし毎年終戦記念日の8月15日に開催されます。スタートはジャズ・太鼓の音楽で平和を謳歌し、式典では平和を考え、最後の花火で平和を楽しむといった内容です。あくまで平和事業の一環として位置づけられ、"花火大会"という言葉は使いません。会場は京急六郷土手駅徒歩5分にある、都内有数の広さを誇る野球グラウンド等がある多摩川河川敷です。私が云うのもなんですが、花火を観るならここは超穴場です。区の方針として区民に楽しんでもらう事を一番考えていて、花火情報誌やネットでの情報などには一切出ていません。打上時間は羽田空港が近くにある関係上、40分と短めですがスターマインを中心に次々に打上げられます。観客は芝生(雑草)に寝転んだり思い思いの格好で間近で大迫力の花火を楽しんでいます。ところで、表題の「こんなに準備したのに」ですが、今年は荒天のため30回行なわれている中で、3回目の中止となりました。ステージ・テント・誘導路提灯・会場内照明そして350名を超える警備員、警察・消防も全てが準備万端な中、前日から降続く雨模様。写真②でも解るように会場内の足場は最悪。最終的に大雨警報が発令され、区は苦渋の決断となりました。前号では「準備は抜かりなく」と書かせて頂きましたが、自然には逆えませんでした。因みに、花火は湿気等の問題もあり、保管出来ずほとんどがバラされ廃棄処分されるそうです。花火屋さんが丹精込めて作った花火、勿体ないですよね。そして安全対策で用意された多くの夜間投光機も出番無く終了(写真③)。多分、区内で1番の数量(85機)です。来年は、是非とも夏の夜空に大輪の華を咲かせてくれと願うばかりです。皆さんも、是非一度ご来場頂き「平和」について皆で考え花火を楽しみましょう。ちなみに大田区民でなくても大丈夫です。【写真】上から順に、①今年のパンフレット、②悲惨な状況、③出番無く雨に濡れる夜間投光機とトラックたち、④本来ならこんな風景が・・・

Project 2.

田中 勇氣

■Event：夏の楽しみのひとつ



楽しい夏が終わり、がっかりして、めそめそしているのにどうしたのか誰にも聞いてもらえない田中勇氣です。夏の楽しみの一つに、24時間テレビがあるんですが、今回はそんな24時間テレビで、僕が心を動かされた裏話のご紹介をしようと思います。1978年に始まった番組の初代総司会者とはどなたかご存知ですか？大物タレントの『萩本欽一』さんです。24時間生放送という当時では無謀ともいえる番組をつくるにあたり、失敗が許されない制作は、総司会者は絶対に超大物タレントの欽ちゃんに決めていたそうです。しかし主旨や企画を説明し、ギャラを提示すると欽ちゃんは『そんなギャラじゃ出れない』と断ったそうです。諦められない制作は何度も金額を見直し、何度も交渉に行きましたが欽ちゃんは、そのたびに『そんなギャラじゃ無理』と断り続けました。制作は「これ以上は無理だ、これで断られたら諦めよう」と、最後の交渉に向かい「これ以上は無理です。これでダメなら…」と交渉すると欽ちゃんは『やれば出来るじゃない。その金額で出るよ。そのかわり僕のそのギャラは全額寄付してね。チャリティーなんですよ』と断ったそうです！！つまり欽ちゃんは少しでも多く寄付するために断り続けたのです。そして自分はタダ働きしても構わないと。。。いかがでしたか？僕も世の為、人の為に『やれる事やってみよう』と思います。このフレーズの正体が気になる方はミュージカル「忍たま乱太郎」第8弾 忍術学園園祭2017でお待ちしています！



Project 4.

PRODUCER：岩下 信而

■Event：キャロル・キングと平原綾香

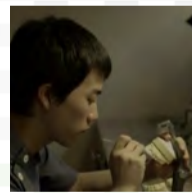
■Date：2017年9月

■Place：日比谷帝国劇場

弊社が親しくさせていただいているビッグスターのひとり、あーやこと平原綾香さん主演のミュージカル「Beautiful The Carole King Musical」を堪能してきた。ブルックリン・ガールが、作曲家になる夢を叶え、ヒットパレードを席卷する。作詞家と家庭を持ち、2児を授かるが破局。そして西海岸へ渡り、シンガーソングライターとして成功するまでを、彼女の数々のヒット曲に乗せて楽しむ、全米大ヒット作品の日本版です。キャロル・キングは、クリエイター(作曲家)志望で、自分の歌声に興味はなかったが、周りにお膳立てをされシンガーソングライターとして成功をおさめる…これって、我らがYumingの生き様と同じ。無垢と謙虚さが大衆に受け入れられる芸術を生み出すのであろうか。キャロルが生み出した名作は、「Locomotion」「One Fine Day」ビートルズでジョージがリパブル訃りでカバーした「Changes」など数多。近年も、街角の女の子たちを紹介するBGMに「I Feel The Earth」が使用されるなど、幅広い世代に受け入れられています。しかし何と言ってもキャロルの代表作は、この芝居の核にもなるアルバム「Tapestry」(つづれおり)。ほくも高校時代毎日聞いて、バンドで演奏。特にA面(笑)が大好き。芝居に関しては、ひとつだけリクエストがある。湯川れい子さんの和訳も素晴らしいのだが散々ちずさんだ有名曲が多いだけに、原語(英語)で歌ってほしかった。だってビートルズを「誰か助けて」とか「昨日 ぼくの悩みは全てなくなったと思ったのに」とは歌いたくないでしょ。上質なエンターテインメントは不変ですが、タイミングも大切です。ほくは、大名人古今亭志ん朝と同時代に生まれた幸せに浸り、観たい時に寄席に行けばいいやと楽観していたら、63歳の若さで逝ってしまった。山口百恵やちあきなおみのように、二度と生で聞かれなくなるケースもあります。皆さんも好きなエンターテインメントには手間暇を惜しまず、積極的に楽しんでください。くれぐれも「It's Too Late」にならないようにね、では次号、Ciao!



お約束のロン毛にブルージーンズと猫



日本伝統芸能に触れてみた

第2プロジェクト 土井 昇範

9月24日まで開催中の、【ECO EDO 日本橋アートアクアリウム2017~江戸・金魚の涼~&ナイトアクアリウム】で、先日、東京大井花柳界の伝統を受け継ぐ芸者衆の舞の現場に立ち会いました。かつては300名を超える芸者衆が華やかに行き交い、明るいうちから三味線の音が流れていた大井花柳界。当時の伝統を受け継ぐ担い手が、まだまだ存在して日々芸事に精進しています。普段は"お座敷"という特別な空間でしか体験できない至福のひとつときということもあって、私も含め、見ていたお客様は全員お姉さま方に釘付けでした。非日常を体験出来るアートアクアリウム。次なる会場は古都京都。10月25日(水)~12月11日(月)の期間、京都・元離宮二条城で2年振りの開催となります。京都会場は唯一の野外展示であり、アートアクアリウム最大級の展示規模を誇ります。京都の地酒や老舗の和菓子、劇団荒城の花形による妖艶な舞など、五感で日本を感じられる話題のスポットです。東京オリンピックに向けて多くのものが進化している中、改めてリアルジャパンに触れてみるのもいいなと思う32歳の土井でした。

